

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成28年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
機関名	秋田大学	全体責任者（学長）	山本 文雄
類型	オンリーワン型	プログラム責任者	小川 信明
整理番号	001	プログラムコーディネーター	柴山 敦
プログラム名称	レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム		

## <プログラム進捗状況概要>

### 1. プログラムの目的・大学の改革構想

#### 【プログラムの目的】

本プログラムは、資源の専門性と応用力、実践力を修得したグローバルリーダーの育成を目的とし、近年勃発したレアアース問題や資源の偏在性、生産環境の悪化といった21世紀の資源開発が抱える課題に俯瞰力をもって挑める人材、すなわち資源分野を牽引する総合力と専門知識を備え、英語力、異文化理解力を含めた国際的視野と独創性豊かな考察力、課題解決力、資源リテラシー、政策立案能力等を身に付けた「資源ニューフロンティアリーダー」を養成する。

#### 【大学の改革構想】

秋田大学では、資源学教育の重点化と教育研究プログラムの強化を行い、我が国を代表する資源学教育研究拠点を形成している。国際的な活動では大学院の英語コース化や海外協定校からの積極的な留学生確保を推進しているほか、国際資源学部を平成26年度に新設し、平成28年度には国際資源学研究科を新設するなど、リーディング大学院と直結する教育研究基盤を構築している。これら資源学教育に関する戦略的な取組は、「資源分野におけるナショナルセンター機能を強化し、世界で活躍するグローバル人材を、実践力・応用力・英語力を兼ね備えて育成する」ことを主旨とした秋田大学の改革構想を具現化したものと言える。また、秋田大学が掲げる第3期中期目標・中期計画期間の改革構想「資源学分野を核とするグローバル化の推進」戦略と合致している点も特徴であり、本プログラムは改革構想の一翼を担う重要な事業となっている。

## 2. プログラムの進捗状況

プログラム統括会議及びプログラム運営委員会を中心に、プログラム全体が運営されており、定常的な活動を進めている。

平成28年度はプログラムの運営組織を工学資源学研究科から国際資源学研究科に移行したことに伴い、ホームページやプログラムパンフレットを一新し、学生募集などのプロモーション活動を強化した。また、博士研究員だった3名の若手協力者を特任助教として採用し、プログラムの自立に向けた基盤づくりに活用している。なお、平成28年度末現在、プログラムには29名の学生が在籍している。

今年度はインドネシア、フィリピンやモンゴルなどの資源保有国を中心にフィールドワークを実施したほか、国内外で行われた学会での発表などに対し積極的な支援を行った。

その他、国内外企業や行政機関等との連携、共同研究を進めることで、講義協力はもちろん、学外での研究活動を積極的に行った。また、学生同士でリーダー像の明確化について議論を行ったほか、大学OBや複数の企業関係者を招いたキャリアパス支援セミナーを開催することで、修了後の出口の明確化に努めた。

今年度は博士後期課程生4名に対し、外部審査委員1名を加えたプログラム独自の中間報告会および学位審査を実施した。その結果、4名全員が博士の学位を取得した。なお、学位取得者（修了生）はフィリピン大学、ベトナム科学技術アカデミー、インドネシア国営石油などへの就職が全員決まっている。

学生支援に関しては、16名の優秀なプログラム学生に対し奨励金を支給したほか、TAやRAの採用を行った。また、「若手チャレンジ&イノベーション研究事業」の公募を行い、5件の研究プロジェクトを採択するなど学生主導の研究を推進した。この他、国内外の資源系大学や研究所から第一線級の研究者を招聘し、プログラム生を対象に特別講義や研究指導の機会を設けるなど教育環境の充実に努めた。

国際シンポジウムや講演会の開催、海外連携大学への訪問を行い、プログラムの積極的な情報発信、優秀な学生の獲得を目的としたプロモーション活動を行ったほか、国内外に向けた広報活動を実施した。特に学内でのプログラムガイダンスでは国際資源学部生に向けた説明会を開催し、日本人学生の獲得に向けた活動を強化した。その他、プログラム学生に対し、メンター教員によるアドバイスやチュータリングを行い、学生が学業や研究に専念しやすい環境づくりを進めた。

評価体制については、外部評価委員会を開催し、本プログラムの現状と実績、将来計画やプログラムの課題・改善点等について助言、指摘を受けるなど次年度以降の改善につながる評価事業を実施した。